

近代日本史上最大のクーデター事件の全記録、ついに完結。
激動の時代を克明に映し出す膨大な原史料群

オンライン版
二・二六事件
東京陸軍軍法会議録

監修・解説：筒井清忠（帝京大学文学部長）

原本：国立公文書館所蔵



刊行にあたって

筒井清忠（帝京大学文学部長）

二・二六事件についての史料の探求と研究の進展状況については拙著『二・二六事件と青年将校』（吉川弘文館、2014年）巻末に詳しく著したところであるが、多くの人の努力によって、青年将校・襲撃された政府高官・関係者や憲兵・警察等捜査側の多くの記録が公刊されてきている。しかし、一番重要で史料的に信頼できるのは軍法会議の記録である。これは長い間発見されず、空襲で焼けたので存在しないと公言する人までいた。ところが、1990年代初めに東京地方検察庁に存在することが確認され、曲折を経て国立公文書館に移管後、今回の出版に至った。

二・二六事件は近代日本史上唯一最大のクーデター事件である。それだけに今日まで多くの風聞が流され、不正確な著作も書かれてきたが、それでも正確な史料研究は着実に積み重ねられて來ており、前掲拙著はそれらをまとめたものである。

しかし、宮城占拠問題、木戸幸一内大臣秘書官長ら天皇周辺の

動き、真崎甚三郎大将や石原莞爾大佐など陸軍中枢の立場、海軍の動向、民間の北一輝・西田税との関係、鎮圧軍の向背、ソ連など外国との関係など、いまだ未解明の部分も少なくない。軍法会議の捜査は、これだけのクーデター事件に逢着した軍がその持てる力を全面的に駆使して行ったため綿密・詳細にわたっており、これ以上調べようがないと言っても過言ではないほどである。したがって、今回の公刊によりそれらの解明は画期的に進むであろう。

それでもなお軍が隠蔽しようとしたこともあるとも思われ、それも含めた謎解き・事件の真相の解明はなお残されている。オンライン版の刊行により、本資料群が広く開かれることが今回の出版の最大の意義ともいえるかもしれない。多くの人に利用されることで、昭和史、否近代日本史上最大の謎が解明していくことを期待したい。

長い間「存在しない」と言われていた二・二六事件の公式裁判記録全67冊を完全収録。10万頁、7,000点以上に及ぶ膨大な原資料で構成。国の中核にいた軍人、政治家、宮中関係者のみならず、財界人、思想家、運動家、ジャーナリスト等、多岐にわたる2,000名以上の聞き取り調査の記録を含む。戦争拡大へと進む激動の時代に迫る一級の史料群。

非公開の軍法会議では何が争われていたのか

東京大学教授 加藤陽子

今回公開の文書は、かねて東京地方検察庁が保管し、研究に限つて閲覧が許されてきた記録全67冊である。2011年の公文書管理法施行、14年の内閣総理大臣・法務大臣間協定を受け、16年に国立公文書館に移管された。東京地検保管時には複写禁止で、閲覧不許可の文書も7冊あったことを思えば、今回の全面公開はまさに喜ばしい限りだ。

これまで部分的な紹介はあった。判決書を翻刻した伊藤隆・北博昭共編『新訂 二・二六事件 判決と証拠』(毎日新聞社、1995年)や、蹶起将校らの公判調書を翻刻した池田俊彦編『二・二六事件裁判記録 躍起将校公判廷』(原書房、1998年)である。また、軍法会議で主席検察官を務めた匂坂春平の遺した史料を翻刻した原秀男ほか編『検察秘録 二・二六事件』全四巻(角川書店、1989年～91年)もある。それ以前の、憲兵調書・判士メモ・戒厳司令部記録等を探録した、林茂ほか編『二・二六事件秘録』全四巻(小学館、1971～72年)、松本清張・藤井康栄編『二・

二六事件＝研究資料』全三巻(文藝春秋、1976年～93年)なども合わせて見るべき史料だろう。

しかし今回のものは特設軍法会議の公式記録であり、これで捜査・予審・公訴・公判まで全段階の史料が揃ったことになる。二・二六事件の研究史の意義や新事実については筒井清忠氏の解説に譲り、ここでは事件の事実そのものと裁判で闘われた争点とのズレに読者の注意を喚起しておきたい。五・一五事件とは異なり二・二六事件は、民間人と軍人が同一の特設軍法会議で、一審・非公開・弁護人なしで裁かれた。五・一五事件の裁判では、将校のテロを農村貧窮という国家非常時への緊急対処として擁護もできた。だが、二・二六事件の裁判では、事件当初に陸軍首脳が将校の蹶起を容認してしまった事実を隠蔽するため、将校の弁明を容れない厳罰方針が採られた。そのような法廷で将校はいかなる弁法で自らの立場を説明していたのか。法廷闘争の全貌が解明される近い日も近いだろう。

研究の飛躍的発展に期待

二・二六事件の真相は、第二次世界大戦後に関係者が重かった口を開き、多様な史料が発見・公開されることによって、次第に明らかになってきた。1950年代には、河野司編『二・二六事件』(日本週報社)が出版され、青年将校たちの遺書が初めて世に出た。60～70年代には、重要資料を収めた高橋正衛他編『現代史資料

国家主義運動1～3』(みすず書房)が刊行され、事件の経緯を相当程度当時の一次史料で追うことが可能になった。

その後も地道な史料の発掘が続いたが、特筆すべきは、存在しないと考えられていた裁判資料が東京地検で発見されたことである。このうち判決部分は、伊藤隆・北博昭共編『新訂 二・二六事件 判決と証拠』(毎日新聞社、1995年)として刊行されたが、資料全体にアクセスすることは困難であった。このたび、国立公文書館に移管された同資料がオンライン版として刊行されたことにより、資料の全貌を把握し、様々な論点を詳細に検討することが可

京都大学教授 奈良岡聰智

能になった。まことに画期的なことであり、この壯挙に敬意と喜びを表する次第である。

オンラインでの史料公開・出版は、世界的な流れであるが、近年日本近現代史の分野においても、重要史料のオンライン出版が相次いでいる。デジタル化された史料は、大量閲覧、数量的分析、画像の拡大・加工による細部の検討、他の一次史料との照合などに便利で、確実に歴史研究のあり方を変えつつある。本データベースは、プラットフォーム、画像ともに大変利用しやすいように作られており、まさにこうした分析を可能にするものである。目録も充実しており、著名ではない人物に関しても、目録を検索するだけである程度の情報を得ることが可能である。本データベースを駆使し、既存の一次史料を再検討することによって、二・二六事件研究は飛躍的に発展するであろう。多くの人によって広く活用されることを期待したい。

一級の歴史資料に触れる醍醐味を

京都大学准教授 福家崇洋

限りある研究者人生において、このような貴重で、膨大な歴史資料群に出会えることはめったにない。東京地方検察庁でほぼ門外不出だった二・二六事件東京陸軍軍法会議録全67冊が国立公文書館に移管され、今回、丸善雄松堂株式会社からオンライン版として出版された。そのページ数は10万にも及ぶという。自宅や職場にいながら、事件の内実を伝える貴重な裁判記録を目の当たりにできることは、大きな喜びである。

二・二六事件についてはすでに多くの諸資料が公刊・蓄積されてきたが、本裁判記録はそれらをはるかに凌駕するほどのインパクトがある。丁寧に作成された資料一覧を見れば、この事件が「昭和史」を画する規模、内容であったことが改めて確認できる。多くの青年将校や民間の社会運動家の記録は、二・二六事件だけにとどまらず、大正中期以降の国家改造運動の貴重な歴史の断片を伝えるものであり、日本近現代史そのものを描きなおす可能性を秘めている。

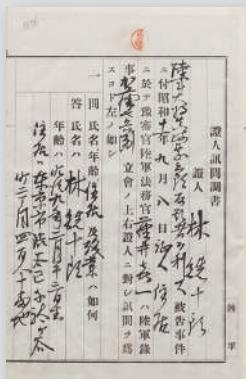
一方で、裁判記録は、一般の人々の思わぬ事件体験も伝える。首相官邸にいあわせた女中は、2、3発の銃声とともに「断末間ノ呻キノ様ナ声」や「万歳」を連呼する声、そのあとに静けさがあつたことを生々しく証言する(「首相官邸女中 証人訊問調書」昭和11年3月1日、東京憲兵隊本部)。事件を様々な人々の証言から追体験することで、もし自分がこの場に居合わせたならば、という想像をめぐらせることができる。一級の歴史資料に触れる醍醐味をぜひ味わってもらいたい。

利用に際し忘れてはならないのは、裁判記録の公開・出版に尽力してくださった研究者や関係者の存在である。公文書として作成された裁判記録は公共の財産であり、多くの客観的な検証を経ることで、より豊かな歴史を生み出していくことができる。今回の裁判記録の出版により、研究者にかぎらない、多くの方々が二・二六事件や日本近現代史に関心をもってくれることを願っている。

多岐にわたる2,000人以上の証言録

陸海軍

荒木貞夫、真崎甚三郎、林銑十郎、石原莞爾、鈴木貞一、加藤寛治、本庄繁、山下奉文、片倉衷、香椎浩平他



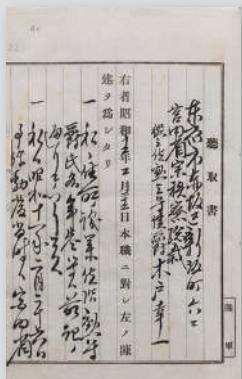
「林銑十郎 証人訊問調書」(昭和11年9月8日、東京陸軍軍法会議予審官)



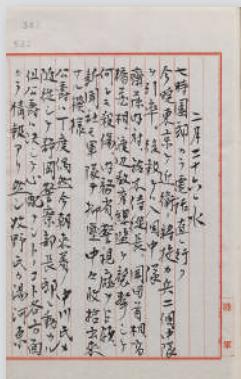
海軍大将山本英輔「東京憲兵隊長宛顛末書」(昭和11年4月2日)

宮中関係

木戸幸一、原田熊雄、奈良武次、河合操、熊谷八十三他



「木戸幸一 聽取書」(昭和12年2月22日、東京陸軍軍法会議検察官)



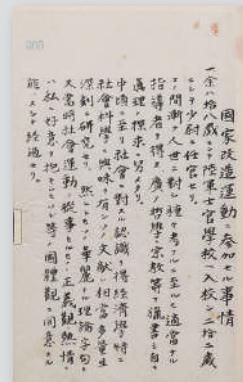
「西園寺公望執事覚書(写)」

思想家・運動家ほか

北一輝、大川周明、西田税、菅波三郎、大岸頼好、亀川哲也他



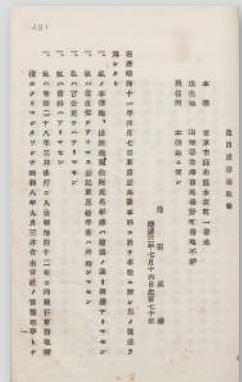
〔国家改造運動の経緯に就いて〕
〔北一輝第七回聴取書〕(昭和11年4月17日、東京憲兵隊本部)



栗原安秀「国家改造運動に
参加せる事情」(昭和11年3月27日)

議会・政党・財界ほか

徳川義親、迫永久常、池田成彬、久原房之助、石原広一郎、清瀬一郎、四王天延孝、鵜澤総明他



〔私の国家革新運動に關心を持つに
至った理由〕(池田成彬聴取書)昭和11年7月10日、東京憲兵隊本部

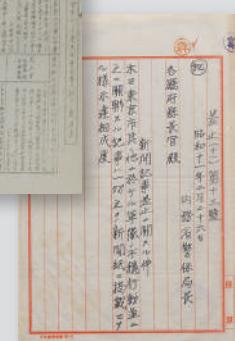


〔総選挙に於ける私の行動〕
〔久原房之助聴取書〕(昭和11年4月9日、東京憲兵隊本部)

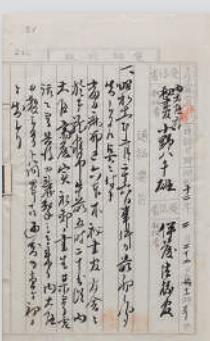
裁判の過程で作成・収集された多様な原史料群

「菅波大尉と満州青年同志会及
同会主要人物との関係表」

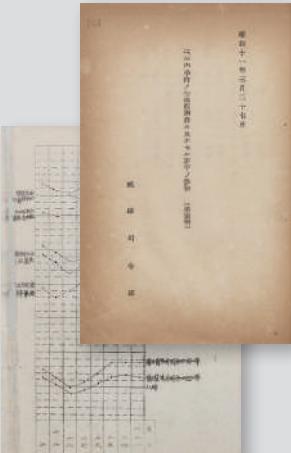
「極秘 叛軍の行為が地方民心に及ぼしたる影響」(昭和11年3月20日調製、戒厳司令部)



「秘 新聞記事差止に関する
件(写)」(昭和11年2月26日、内務省警保局長)



「内大臣府秘書官小野八
千雄通話要旨」(昭和12年2月22日)



「二、二六事件の帝国經濟界に及ぼ
せる若干の影響(未定稿)」(戒嚴
司令部、昭和11年3月27日)

オンライン版

二・二六事件 東京陸軍軍法會議録

監修・解説：筒井清忠（帝京大学文学部長）

全二部 ￥600,000(税別)

原本：国立公文書館所蔵

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
 完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
 <1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>

収録内容

近代日本史上最大のクーデター事件である二・二六事件の裁判は、一審即決、弁護人なし、非公開の東京陸軍軍法會議で行われた。本データベースでは、長い間「存在しない」と言っていた二・二六事件の軍法會議録 全 67 冊を完全収録。10万頁、7,000 点以上に及ぶ膨大な原史料群に独自の目録を付与し、人名、件名、作成部局、日付等での検索を可能とした。大半を占める聞き取り記録は、国の中核にいた軍人・政治家・宮中関係者だけでなく、実業家、思想家、運動家、ジャーナリストや民間人にまで広く及び、太平洋戦争へと突き進む昭和 10 年代を克明に今に伝える好史料である。

第一部 訴訟記録、事件簿等 32 冊

￥300,000(税別)

真崎甚三郎、菅波三郎、西田税等の事件の主要人物のみならず、木戸幸一、原田熊雄、奈良武次、徳川義親、迫水久常、石原莞爾、大川周明など、多岐にわたる聴き取りの記録を含む。将校班に関しては、聴取書に加え、手記や書簡などの自筆資料も豊富。満州等外地との関係や、運動資金に関する調査資料、軍法會議を総括した事件簿や名簿類も収録。

第二部 訴訟記録、検証調書等 35 冊

￥300,000(税別)

北一輝に関する膨大な捜査資料や本人の聴取書をはじめ、国家改造運動に関わった人物の手記や聴き取りを含む。また、久原房之助、池田成彬、清瀬一郎、薩摩雄次など、実業家や弁護士、ジャーナリスト等の聞き取り記録や、二・二六事件が政党や一般民衆に及ぼした影響等に関する検証記録、現場検証時の地図や写真も多数収録。

*収録内容は予告なく変更の可能性がございます。

好評発売中

近現代史料データベースは横断検索が可能です

オンライン版 矢部貞治関係文書 原本：政策研究大学院大学図書館所蔵 價格 ￥400,000(税別)

オンライン版 矢部貞治関係文書 補遺 原本：矢部家所蔵、衆議院憲政記念館寄託 價格 ￥270,000(税別)

有沢広巳旧蔵 オンライン版 社会政策・エネルギー政策関係資料集 全二部 價格 ￥900,000(税別)

オンライン版 三木武夫関係資料 全四部 價格 ￥2,400,000(税別)

オンライン版 大来佐武郎関係文書 日記・手帳・ノート 1936-1993 價格 ￥400,000(税別)

オンライン版 我妻栄関係文書 全三部 價格 ￥1,200,000(税別)